

理解する倫理

～日本思想編～

準拠テキスト

manavee 倫理科

京都大学 manavee 所属

はやお 著

manavee 出版

目 次

1. 日本の風土・自然・文化
2. 古代日本人の宗教・道徳観
3. 仏教の伝来と奈良・平安仏教
4. 最澄と空海
5. 鎌倉仏教①
6. 鎌倉仏教②
7. 仏教と日本文化
8. 朱子学
9. 日本の儒学・陽明学
10. 国学・神道
11. 江戸期の民衆思想
12. 洋学と幕末の思想
13. 啓蒙思想
14. 自由民権運動
15. 国粹主義
16. 日本のキリスト教
17. 大正デモクラシー
18. 日本の社会主義 (+追加)
19. 近代的自我と文学
20. 日本の伝統に根差した思想
21. その他の思想家

2. 古代日本人の宗教・道徳観

○信仰…^{やおよろず}八百万の神 (多神教(⇔一神教(キリスト・イスラーム))・恵みと崇りの神)

- ・アニミズム…自然崇拜。大木や大岩などの自然のもの(無機的なものであっても)に霊が宿るという考え。
- ・祖先崇拜…死者の霊→祖霊(山・海)→祖先神(信仰対象) (ex. お盆…(祖先の)迎え火・送り火)
- ・カミ・氏神…血縁・地縁集団を守る神。 } 次第に同一視
- ・産土神…出生地の守護神。
- ・田の神…^{としごいのまつり}祈年祭(豊作祈願)・^{にいなめさい}新嘗祭(収穫に感謝(勤労感謝の日))

まれびと (折口信夫)…外から来る「何者か」がカミである。

祀る神・祀られる神 (和辻哲郎)…ある神が、神として祀られると同時に自らも他の神を祀る。

○死生観…「この世」を享受。(現世主義的)

○思考…

- ・おのずから(自然など、それ自体の力がもつ勢い・力などによって現れたものである。)
- ・ハレ(晴)とケ(褻)…日常と異なる正式・公の日をハレ、日常と変わらない普段の日をケという。

○宗教観…

- ・記紀神話…『古事記』・『日本書紀』
イザナギノミコト(伊邪那岐命)・イザナミノミコト(伊邪那美命)

- ・天照大神(アマテラスオオミカミ) (太陽神。高天原(神々の世界)の中心。伊勢神宮に祀られる。)
- ・素戔嗚命(スサノヲノミコト) (天照大神の弟。高天原で暴れたために追放される。)

^{たかまがはら}高天原 (神々の住まう世界)

^{あしはらのなかつくに}葦原中国 (我々の住む現世)

^{よみのくに}黄泉国(根の国) (死者の世界)

- ・古神道…仏教流入以前の民俗的な信仰。あまり体系立ってはいない。

○道徳観…

- ・^{きよ}清き^{あか}明き心(清明心)・^{せいめいしん}明き心・赤心…神に対して欺かない純粋な心⇒清し

(^{きたなきこころ}黒心・濁心・邪心・異心・暗き心・私心)

清明心→^{せいちよく}正直(中世・武士階級。他人の所有物への欲の抑制。)→誠(近世・人を欺かず真実を貫く。)

- ・罪・穢れ…古代日本人の罪悪感。罪とは、共同生活のしきたりを破るものをさす。
→罪・穢れを清める…・^{みそぎ}禊…神聖な水につかって、心身の穢れを洗い清めること。
・^{はら}祓え…罪の代償物や、形代などに罪や穢れを託し、祓いさること。

センター問題に挑戦! No.2 (2008年追試) [標準]

「大祓の詞」に関する儀式として、祓い(祓え)がある。この儀式の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 災害や病気を外部から侵入した邪悪な力によるものと考え、それをなだめ祀ることによって恵みを与える力に変えようとした。
- ② 災害や病気を人間の行いに対する報いと考え、身を慎み、戒律に従って行いを正すことによって平安を得ようとした。
- ③ 災害や病気を人間の心の持ち方によって引き起こされたものと考え、罪を告白し、悔い改めることによって赦しを得ようとした。
- ④ 災害や病気を外からふりかかるものと考え、それを除去したり代償を捧げたりすることによって正常な状態に戻れるとした。

[No.1の答④ 説明は略]

3. 仏教の伝来と奈良・平安仏教

○仏教の伝来…6世紀前半 - 中ごろ(538?・552?)百済の聖明王→欽明天皇に仏像・經典献上。

仏 = 蕃神・客神(外国の神) ⇔ 国神(日本古来の神)

…仏教を受け入れるかどうかでバトル!(崇仏論争) ○蘇我氏 vs ×物部氏

仏教?刀、カケ☆ 仏教?ダメだ! 日本古来の神様はどうなるんだ!!

○聖徳太子…推古天皇の甥。摂政を務める。仏教を奨励し、四天王寺や法隆寺を建立。

・十七条憲法(憲法十七条)…一、和を以て貴しと成し、忤ふること無きを宗とせよ。

日本の協調 儒教的道徳(上下)

二、篤く三宝を敬え。三宝とは仏・法・僧なり。
仏教の重視

十、……我必ず聖に非ず。彼必ず愚かに非ず。共に是凡夫ならんのみ。……
凡夫:欲望の間に迷う人間

・『三経義疏』…法華経・勝鬘経・維摩経の注釈書。

・「世間虚仮・唯仏是真」…世間はむなしく、仏のみが真の存在である。(→仏教的世界観)

○奈良仏教…鎮護国家思想に基づく国家主導の仏教。(ex. 東大寺・国分寺・国分尼寺(聖武天皇))

・南都六宗…三論・成実・法相・俱舎・華嚴・律の6宗。(鑑真が伝える)⇒学問としての仏教

・鑑真…唐から渡来。東大寺に戒壇を設け、受戒制度を確立。唐招提寺建立。

・行基(遊行聖)…民衆への布教、宿泊所・橋の建設などの社会事業→東大寺造立に参加。

○平安仏教…災いを除き、福を招き、現世での幸福を願う現世利益を求めて加持祈禱が行われる

・入唐した最澄・空海(※講義 No.4「最澄と空海」で解説)により新仏教伝来。教説・修行の体系化

・加持祈禱…病氣や災難を除くために仏の加護を祈る呪術の一種。

○神道とのかかわり…

・本地垂迹説…仏が本地(真理の根源・main)で神は垂迹(民衆に分かりやすく形となって現れること・sub)

平安初期から生まれ、のちに権現思想(神は仏が「権に現れたもの」とする思想)が広まる。

反対に、鎌倉末期の神国思想(蒙古襲来の撃退)の影響で神がmainで仏がsubという考えを反本地垂迹説(神本仏迹説)という。(→度会家行による伊勢神道(度会神道)形成)

・神仏習合…日本固有の神と仏教との信仰の融合。(ex. 神社に神宮寺、神前読経)→神道思想形成・仏教の民間伝播の促進。

○末法思想と浄土信仰…

・末法思想…釈迦没後、正法千年(教・行・証)・像法千年(教・行)・末法一万年(教)という段階を経て次第に仏教が衰えていくという考え。1052年が末法の始まりだとされた

・浄土信仰…(11世紀中ごろ)摂関政治の衰退→戦乱・災害→人々の不安→浄土教が人々の心を掴む

・浄土教…「厭離穢土・欣求浄土」をスローガンに、(西方)極楽浄土への生まれ変わりを信じ願う教説

・厭離穢土・欣求浄土…この世は穢れていて厭だ! 極楽浄土へ往生(阿弥陀仏と共に生きる事)したい!

・念仏…
口称(称名)念仏 (唱える) 浄土教: 南無阿弥陀仏(阿弥陀仏に心から帰依します!)
観想念仏 (心に思い浮かべる)

・空也(市聖・阿弥陀聖)…諸国を遊行して念仏を庶民に広めた。公共事業や貧民・病人の世話なども

・源信…『往生要集』で西方浄土へ往生することを説く→のちの法然にも影響

センター問題に挑戦! No.3 (2010年追試) [標準]

「蕃神」に関して、蕃神とは外国の神という意味である。当時、仏を蕃神と呼んで、それを信仰することに反対する人々もあった。それらの人々が反対した理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 外国の神を敬うのは、在来の神々の怒りを呼ぶおそれがあるから。
- ② 外国の神を受け入れるのは、在来の絶対神との契約に背くから。
- ③ 仏には、在来の神々のように恩恵だけをもたらす力がないから。
- ④ 仏を在来の神々と同列に扱うのは、仏の怒りを招くおそれがあるから。

[No.2の答④ ①×邪悪な力を恵みを与える力に変化 ②×戒律に従い⇒仏教的。文章もちぐはぐ。 ③×罪を告白し、悔い改め、赦しを得る⇒キリスト教的]

4. 最澄と空海

- 最澄…**天台宗**/[総本山]比叡山延暦寺(京都府)/[著書]『**山家学生式**』(How to 育成 お坊さん?)『**顕戒論**』
 (僧侶の資格を得るときに戒(僧侶として守るべき規律)を頂く。それは、従来の奈良仏教では小乗戒だったが、そうではなくて、大乘菩薩戒によって僧になる方がいいのでは?という主張。)
 〈教義〉**法華経**(天台宗の中心経典)説く**一乗思想**を信じ、これをブツダ本来の教えとする。誰もが仏性をもっている、自分の本性を自覚し修行をすれば、真理を悟り、成仏できるとした。人の素質により仏になれるかどうかの差があるとした南都仏教を批判。
 ・**戒壇**…戒壇(僧の資格「戒」を授ける場所)を比叡山にも作る→死後に実現。南都六宗から独立
 ・**(法華)一乗思想**…さまざまな教えの本質・根本は一つであり、個人の資質に関係なく、すべての人が仏になれるという考え
 →「山川草木悉皆成仏」(自然の山川や草木という心を持たないものでさえも、仏性は備えており、みんな仏になる資質がある) ⇔ 南都(奈良)仏教(仏になれる人は限られている)を批判・対立
 ・四宗兼学…天台・密教・戒律・禪を包括する総合仏教

- 空海…**真言宗**/[総本山]高野山金剛峰寺(和歌山県)/[嵯峨天皇から賜る]東寺(教王護国寺)(京都府)/[庶民のための学校]綜芸種智院/[著書]『**三教指帰**』(儒・仏・道の3教の教えを比較して、仏教がもっとも優れていると主張)『**十住心論**』(空海の思想の集大成。種々の既存の宗教観を織り交ぜて総合的に位置づけ、**大日如来**を中心とする悟りに到る道のりを段階的に論じる)
 〈教義〉長い時間の修行によりはじめて成仏できるという他の宗派を批判。**三密**と呼ばれる神秘的な行(秘密の教え=**密教**)を行えば大日如来と一体化し、**即身成仏**できるとした。
 ・**密教**…言葉では伝えきれない秘密の教え(⇔**顕教**…言葉に示され理論的に学べる普通の仏教)
 東密(東寺の密教)・真言密教と呼ばれ、真言宗が代表的。のちに天台宗も密教化(台密)
 ・**大日如来**(毘盧遮那仏)…密教の最高仏。一切の如来・菩薩・神々を包摂する、宇宙の真理そのもの
 ・**三密**…身密・口密・意密の3つの行。身に**印契**(印・印相とも。仏の神秘的な力を象徴する指や手の形)を結び、口に**真言**を唱え、心が仏を感じるということ。これによって即身成仏できるとした。
 ・**真言**…サンスクリット語の**マントラ**の漢訳。神聖で神秘的な力を持つ呪文。(ex. オン・○×～～ソワカ)
 ・**即身成仏**…この身がそのまま仏になるということ。真言宗の思想の中心であり、三密の行により大日如来と同一化すると考えられた。現世利益に重きを置く平安仏教の特色を反映している。
 ・**曼荼羅**…大日如来中心の宇宙の真理を表現。
 ・胎蔵界曼荼羅…仏の慈悲を表す理の曼荼羅
 ・金剛界曼荼羅…行による智の獲得過程を表す智の曼荼羅

センター問題に挑戦! No.4 (2001年本試) [易]

比叡山に延暦寺を建立した最澄の思想についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 正しい仏教を樹立することによって、立正安国が達成されると主張した。
- ② 『法華経』の教えを中心とし、すべての衆生に仏性があることを強調した。
- ③ ひたすら修行をすることが、そのまま悟りの証であると説いた。
- ④ 宇宙の諸事象は、すべて大日如来のあらわれであると説いた。

[No.3の答 ① ②×絶対神⇒日本は一神教ではない。×契約 ③×恩恵だけをもらす⇒神=畏れ(恵み・崇り)の存在。 ④×仏の怒りを招く⇒新しい外国の神に対して、そこまでへりくだるわけがない。文章もちぐはぐ。]

5. 鎌倉仏教①

	宗派・開宗	開祖	総本山	主要著書	教義と特色
浄土宗系	浄土宗 [1175]	法然	知恩院 (京都府)	『 <small>せんちやくほんがんにんぶつしゅう</small> 選択本願念仏集』	ひたすらに南無阿弥陀仏を唱えること(専修念仏)
	浄土真宗 (一向宗) [1224]	親鸞	本願寺 (京都府)	『教行信証』 (弟子・唯円『 <small>たんにしゅう</small> 歎異抄』)	一念發起して念仏を唱えれば、直ちに往生 煩惱深い悪人こそ救われる(悪人正機説)
	時宗 [1274]	一遍	清浄光寺 (神奈川県)	一遍は死の直前に、著書や経典を焼き捨てた。 (弟子『一遍上人語録』)	信心の有無、浄・不浄を問わず、念仏を唱えれば救われる 踊念仏によって布教
日蓮宗系	日蓮宗 (法華宗) [1253]	日蓮	久遠寺 (山梨県)	『立正安国論』	題目(南無妙法蓮華経)を唱えれば救われる 「念仏無間・禅天魔・真言亡国・律国賊」(四箇格言)と言って、他宗を激しく非難
禅宗系	臨済宗 [1191]	栄西	建仁寺 (京都府)	『興禅護国論』 『喫茶養生記』	座禅を組みながら、師から与えられる公案を解決していくうちに悟りの境地に達する
	曹洞宗 [1227]	道元	永平寺 (福井)	『 <small>しょうぼうげんぞう</small> 正法眼蔵』 (弟子・懷舜『 <small>しょうぼうげんぞう</small> 正法眼蔵随聞記』)	ひたすら座禅をすること(只管打坐)によって悟りを開く

(表:鎌倉新仏教のまとめ)

- 特徴…末法の世の中で、庶民が救われるための新しい教え⇒鎌倉新仏教(⇔南都六宗)
- ・禅宗系の2宗は少々例外的だが、一般に、救われるためには、
 - ①困難な修行はいらない(易行)
 - ②多くの経典からただ1つの教えを選ぶ(選択)
 - ③選んだ教えだけにすぎる(専修)…念仏(浄土宗系)・唱題(日蓮宗系)・座禅(禅宗系)
 という特徴を持つ。

■浄土宗系

- 法然…**浄土宗**/[総本山]知恩院(京都府)/[著書]『せんちやくほんがんにんぶつしゅう選択本願念仏集』(革新的。旧仏教からの批判も多い(華嚴宗の高弁(明恵)『みょうえ ざいじやりん摧邪輪』))

〈教義〉阿弥陀仏の本願を信じ、その名号(南無阿弥陀仏)を唱えること(称名念仏・口称念仏)と、仏・菩薩の救いの力=他力(⇔自力)を信じる事により、必ずどんな人でも極楽往生できる。

- ・本願…阿弥陀仏がその修行のときに立てた、すべての人間を救済するための誓願。→他力本願
- ・専修念仏…他の一切の修行方法を捨てて、もっぱら念仏を唱える事。

- 親鸞…**浄土真宗**/[総本山]本願寺(京都府)/[著書]『教行信証』,唯円『たんにしゅう歎異抄』(親鸞の語録&唯円の批判)
- 〈教義〉師の法然の思想を突き詰める。悪人正機・絶対他力。

- ・悪人正機…阿弥陀仏は自力で悟れない人のために本願を立てた。⇒善人よりも、煩惱という悪にとらわれた、煩惱具足の凡夫という自覚を持つ悪人こそが阿弥陀仏の救いにふさわしい。
「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」(善人ですら往生できる。まして悪人ならなおさらだ!)
- ・絶対他力…他力中の他力。救いのすべてが阿弥陀仏によるもの。→自然法爾…絶対他力の立場を示す

- 一遍(遊行上人・捨聖)…**時宗**/[総本山]清浄光寺(神奈川県)/[著書]弟子『一遍上人語録』

- ・踊念仏…念仏をとえながら踊ることによって時宗を広める。

センター問題に挑戦! No.5 (1998年追試) [標準]

絶対他力を説明したのものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 阿弥陀仏に対する信仰の心すらも、阿弥陀仏から与えられたものである。
- ② 凡人は自力往生できず、優れた徳を持つ人間の力にすぎるべきである。
- ③ 悪人こそ正機であり、阿弥陀仏に頼む必要があるのは善人の方である。
- ④ すべての生き物、山川草木、風や波も、念仏を唱えているのである。

[No.4の答 ② ①×立正安国⇒日蓮宗。 ③×[全文]⇒曹洞宗の修証一等。 ④×大日如来⇒真言宗。]

6. 鎌倉仏教②

■日蓮宗系

- 日蓮…**日蓮宗**/[総本山]久遠寺(山梨県)/[著書]『**立正安国論**』(1260年執権北条時頼に献上。・立正→法華経の教説に基づく正しい仏教の成立。・安国→それによる国家の安泰の実現。)'『**開目抄**』(蒙古からの国書の到来を巡る幕府の政策の非難)
- 〈教義〉**法華経**はあらゆる権威を超越するもの=仏教の神髄と考え、**題目**を唱える事(**唱題**)による即身成仏、**立正安国**を説いた。
- ・**法華経**(妙法蓮華経)…永遠の生命を持つ仏について説く。大乘の慈悲と一乗思想が展開。中国・日本の仏教思想に大きな影響(ex. 聖徳太子・最澄)(個人的には日蓮は法華経原理主義者だと思う。)
 - ・**題目**…「南無妙法蓮華経」(南無→帰依(「〇×命!」)→・**唱題**…題目を唱える事
 - ・**法華経の行者**…法華経を広め、実践する人。法華経の受持者は、迫害(**法難**)に遭うと説かれている。日蓮は自らを法華経の行者として自覚し、迫害に屈せずますます使命の達成に邁進した。布教の方法として、他宗を論破し、法華経に帰依させる方法(折伏)をとった。
 - ・**四箇格言**…「念仏無間・禅天魔・真言七国・律国賊」→他宗教非難(浄土宗:地獄行き/禅宗:悪魔/真言宗:国を滅ぼす/律宗:国賊)
 - ・久遠実成本仏…永遠の昔に悟りを開き、教えを説き続けている仏(釈迦の悟った永遠の真理=仏)

■禅宗系

- 〈概説〉禅宗は、座禅(足を組んで座って瞑想すること)を中心に修行をする宗教。自己の仏性を確信し、自らの努力によって悟りを開く**自力**の立場。(⇔**他力**)
- 栄西…**臨済宗**/[総本山]建仁寺(京都府)/[著書]『**興禅護国論**』(禅宗への非難に対し、禅宗の使命を述べたもの。戒律の遵守・優れた人物の育成・禅の有用性(鎮護国家に寄与)などが述べられている。)
- 〈教義〉座禅し、公案に一心に取り組むことにより、悟りに到る。当初は旧仏教の圧迫に遭うが、鎌倉・室町幕府に受け入れられ、武士を中心に発展した。また、日本文化にも大きく影響を与えた。
- ・公案…臨済宗における修行の際に悟りに到る手段として、師が門弟に与える問題。禅問答。

- 道元…**曹洞宗**/[総本山]永平寺(福井県)/[著書]『**正法眼蔵**』(栄西の説法をまとめたもの。末法思想の否定や自力座禅、**心身脱落**の境地などが説かれている。)弟子・**懷辨**『**正法眼蔵随聞記**』(道元の言行録)
- 〈教義〉ただ一心にひたすらに座禅をすること(**只管打坐**)によって、執着を離れて一切の無我の境地に到ること(**身心脱落**)自体が、悟りの姿である。(修証一等)
- ・**只管打坐**…焼香・礼拝などを排して、ひたすら座禅に打ち込むこと。(「只管」→ひたすら「打坐」→座禅に打ち込む) (+α 仏法のために身を捧げる覚悟で精進する(為法捨身))
 - ・**身心脱落**…道元の思想の中核をなす。身体も精神も一切の執着を離れた無我の境地。
「仏道をなろうということは、自己をなろうなり。自己をなろうということは、自己を忘るるなり。自己を忘るるというのは、万法に証せらるるなり。(現実に実証される)万法に証せらるるというのは、自己の身心、および他己の身心をして脱落せしむるなり。」 『正法眼蔵』
 - ・**修証一等**…座禅の修行=悟りの体現そのもの。

センター問題に挑戦! No.6 (2000年本試) [標準~や、難]

以下の文章は、鎌倉新仏教の開祖たちの、神々や国土・国家に関する考え方を述べたものである。それらの中で日蓮の思想について述べたものとして最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。

- ① この世界は苦しみに満ちた穢土であるから、仏の慈悲にすがって西方の極楽浄土に生まれ変わることを願うべきである。その際、末法の世の煩惱に満ちた我々は、難しい修行は不可能であるから、ひたすら念仏を唱えるだけでよい。
- ② 日本は辺土であり時代も末世であるから、従来と同じ修行方法では、悟りを開くことは困難であるという考え方もある。しかし、仏法においては、どのような国や時代に属しているかは本質的な問題ではない。釈迦と変わらない心身の修行を実践すれば、まったく同じ悟りが得られる。
- ③ 日本の神々は、本来永遠の生命を持った釈迦を守るべき存在である。しかし日本の人々は誤った仏法を信じているため、善い神々はこの国を捨てて立ち去ってしまっている。したがって、人々を早く真の仏法に帰依させ、国家の危機を救わねばならない。
- ④ 無限の光としての阿弥陀仏は、この穢土をも包み込んでいる。したがって、自分の悪を徹底的に自覚し、すべてを仏にゆだねた瞬間に、極楽浄土への往生は確定する。そうした信仰の人を神々も自然に守護するから、阿弥陀仏以外に神々を直接信仰する必要はない。

[No.5の答] ① ②×**優れた徳を持つ人間にすがる**⇒阿弥陀仏にすがる。 ③×**善人**⇒悪人。善人は自分で勝手に成仏できる。 ④×**全文**⇒山川草木悉皆成仏の考えは、最澄。

7. 仏教と日本文化

○無常観…この世のあらゆる物事は絶えず移り変わる→仏教的な考え方

(日本人は、無常を主観的・心情的に捉えた)

祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり 沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理^{ことわり}をあらはす 『平家物語』
ゆく河の流れは絶えずして しかももとの水にあらず 『方丈記』
くすむひとは見られぬ、ゆめのゆめゆめ世をうつつがほして
なにせうぞ、くすんで、一期は夢よ、ただ狂へ 『閑吟集』
願はくは 花の下にて 春死なむ そのきさらぎの 望月のころ 『山家集』

- ・鴨長明『方丈記』…火災・竜巻・干ばつ・地震などの天変地異に人の世の無常を感じる
- ・吉田兼好『徒然草』…「つれづれなるまま」に、今思い浮かんだことを書きとめる
- ・西行『山家集』…世間から隠遁し、花鳥風月を愛でる世界に身を投じる

○芸道…

- ・能(「幽玄」を特徴とする。観阿弥・世阿弥(能の理論書『風姿花伝』を著す)親子によって大成)
 - ・幽玄…「幽」かすか・深い 「玄」黒い →深くて微妙な仏教の本質
- ・茶道…千利休によって「わび茶」(簡素な茶)として大成。一期一会を心得とする
 - ・わび…物悲しく心細い心の状態。不足の中に簡素で趣深い有様を見出す。
 - ・さび…ひっそりとして淋しい境地。心の孤独を表す。
- ・生け花(華道) ・水墨画 ・枯山水(石庭) ・俳諧 など……

センター問題に挑戦! No.7 (1998年追試) [や易]

一つ一つの立ち居振る舞いに虚飾のない美を求める能や茶道のあり方や、枯山水や水墨画、あるいは華道に関係の深いものはどれか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 自然の簡素できりつめた表現のうちに、美や悟りの世界を表そう。
- ② 自然のリアルで忠実な表現のうちに、美や悟りの世界を表そう。
- ③ 自然の豪華で華麗な表現のうちに、浄土の姿や仏の救いを示そう。
- ④ 自然の繊細で簡潔な表現のうちに、浄土の姿や仏の救いを示そう。

[No.6の答③] ①×ひたすら念仏を唱える(専修念仏)⇒法然。 ②×釈迦と変わらない心身の修行⇒道元。 ④×自分の悪を徹底的に自覚し、すべてを仏にゆだねる⇒親鸞。

8. 儒教と朱子学

○儒教…開祖は孔子。4-5世紀ごろ伝来。政治思想に影響を与える

□藤原惺窩[1561-1619]近世儒学の祖。もとは僧侶だったが、儒教に魅せられ還俗。家康に儒学を説き、江戸時代を通じての幕府の正式の学問(官学)となった。

○朱子学…開祖は朱子(朱熹)。儒教の一派で、宋代に大成。日本では官学として江戸幕府が採用

[朱子学・再確認] ・理気二元論／・性即理／・居敬／・窮理／・格物致知

□林羅山[1583-1657]惺窩の弟子。家康から家綱の4代に仕え、朱子学の官学化の礎を築く。死後、林家は代々幕府に重用され、1690年には私塾が移されて湯島聖堂学問所となり、のちに幕府公式の学問所として昌平坂学問所(昌平黌)となった。

[著書]『春鑑抄』『三徳抄』

〈教義〉

・上下定分の理…君主と臣下という関係は、天や地の道理と同じように定まっている

「天は尊く地は卑し、天は高く地は低し、上下差別あるごとく、

人にもまた君は尊く、臣は卑しきぞ」林羅山『春鑑抄』

・存心持敬…常に心の中に敬を持つことを心がけ、上下定分の理を身をもって体現する

・敬…私利私欲を戒め「うやまう」ではなく「つつしむ」の意

・天人合一…本来の自己に帰る→心が天と通じる⇒自己と天(万物を貫く理(天理))が合一

○各地の朱子学者…

〈京学〉…藤原惺窩からの師弟関係 (★は、大名などに仕えていることを示す。)

木下順庵		新井・室・雨森など、多くの弟子を育てる
新井白石	幕府★	幕政に参加し、文治主義を進める。鎖国下でも西洋の様子を理解するために、シドッチに尋問し『西洋記聞』を著す。
むろきゆうそう 室鳩巢	加賀★	白石失脚後吉宗に仕え、古学流行の中でも朱子学の立場を堅持する。
あめのもりほうしゅう 雨森芳州	対馬★	朝鮮語に通じ、朝鮮との善隣友好外交に努力した。(朝鮮通信使の接待など)
かいぼらえきけん 貝原益軒	筑前	朱子学者であり本草学(薬物学)者。窮理の精神に基づき、合理的・批判的な態度で実証主義的思想を育てる。

〈南学〉…南村梅軒からの師弟関係

南村梅軒	土佐	南学(土佐南学)の祖。
山崎闇斎	京都	朱子学・神道学者。儒教と神道を統合した垂加神道を形成した。(第十講で詳説)
佐藤直方		闇斎の弟子。朱子学者。朱子学よりも神道に傾倒した闇斎を批判し、破門。

センター問題に挑戦! No.8 (2008年本試) [やゝ易]

精神修養を重んじた思想家の山崎闇斎に関する説明として、最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 上下定分の理を具体化した礼儀法度の厳守を説いて、徳川幕藩体制の身分制度の確立に貢献した。
- ② 居敬窮理の厳格な実践を説き、のちに儒教の理と日本の神とを結合させた独自の神道説を唱えた。
- ③ 商人の職分の意義を説き、常に正直と儉約の心で商売に懸命に励むなら、利潤追求も正当な営みとなると唱えた。
- ④ 一君万民を唱えることによって、幕藩体制に一石を投じ、私を滅して忠を尽くすべきことを説いた。

[No.7の答] ① ②×リアルで忠実 ③×豪奢で華麗 ④×浄土の姿や仏の救い

9. 日本の陽明学・儒学

○陽明学…開祖は王陽明。儒教の一派で、明代に大成

[陽明学・再確認] ・知行合一／・心即理／・良知

□中江藤樹[1608-48]日本陽明学の祖。朱子学から出発するも、これを批判し陽明学を説いた

[著書]『翁問答』門人との問答形式で自らの思想を論述。[私塾]藤樹書院

〈教義〉

・孝…「まごころ」のこと。親子だけではなくあらゆる人間関係を成立させる人倫の根本原理。万物の存在根拠をなす。愛敬(上を敬い下を蔑まないこと)の心を本質とする。

・良知…すべての人にある、善悪を判断する能力。

・知行合一…行う事は知ることの完成であるという考え。

・時・処・位…孝の心の実践的なあり方。時(時期)・処(場所)・位(地位)の三つの条件の事。朱子学では、常に規範を遵守することが求められたが、陽明学では、状況への柔軟な対応を重視した。

□熊沢蕃山[1619-91]藤樹の弟子。礼法は時・処・位の状況によって変化し、普遍的性格を持つものではないとした。また、単に聖人の事績を学ぶのではなく、聖人の心を学ぶべきだと説いた。岡山藩主池田光政に仕え、治山治水に功をあげるも、著書『大学或問』で幕政を批判し、晩年は隠棲した。

□大塩平八郎[1792-1837]もと大坂町奉行所の与力であったが天保の飢饉における民衆の貧窮を歎じ、兵をあげたが、失敗し自害した。

○古学…朱子学や陽明学などの、後世の儒学者による解釈を排し、原典を直接読むことによって儒学の本来の精神を明らかにしようとする考え。

□山鹿素行[1622-85]朱子学の観念性を批判。泰平の世に、民衆を導き政治に参画する指導者としての武士の性格を求め、士道を説いた。また、自らの学問を「聖学」とした。

[著書]『聖教要録』初めての古学の書。政治に参画する者としての武士の道徳としての士道を説く。

・士道…江戸期に儒教倫理を基に説かれた武士道。武士は天下の政治を担当する自覚をもち、農工商の三民を率いて人道を実現する長となるのが武士の職分だとした。指導者としての倫理的自覚と高貴な人格の涵養が士道の根本

(⇒山本常朝[1659-1719]鍋島藩士。著書『葉隠』の中で、主君への絶対服従と死の覚悟を説いた。)

「武士道というのは、死ぬことと見つけたり」

○古義学…『論語』『孟子』にかえって、この二書を熟読し、古義(もともとの意味)を明らかにする考え。

□伊藤仁斎[1627-1705]古義学を提唱し、孔孟の精神を明らかにしようとした。長男の伊藤東涯が考えを受け継ぎ、古義学派(堀川学派)とよばれた。

[著書]『童子問』『語孟字義』[私塾]古義堂

・仁・愛…仁斎が孔子の教えの根本としてとらえたもの。人間相互の愛は仁愛であり、根本に誠が必要だとした。

・誠…自他に対していつわりを持たない純粋な心情。仁斎は、仁愛の実現には、誠という心の在り方が重要だとした。具体的には、誠は忠信(自他を欺かないこと)の実践に表れる。

○古文辞学…実証的な文献学。中国の古典や聖賢の文章・言葉に直接触れる考え。主に五経を重視。

□荻生徂徠[1666-1728]徳川将軍の侍医の家柄に生まれる。柳沢吉保に重用され、引退後は私塾護園で儒学の研究にいそしむ。[著書]『弁道』古文辞学の方法を説く『弁名』

・先王の道…道は自然に備わっているものではなく、中国古代の王が天下を安定させるために制作した安天下の道であるとした。具体的には、礼楽刑政の制度や習慣を指す。

・経世済民…世を治め、他人を救う事。政治・経済の両輪。

□太宰春台[1680-1747]はじめ朱子学をならうが、32歳で徂徠に入門。主著『経済録』で経世済民を強く主張。富国強兵・藩の専売制などを説く。

□服部南郭[1683-1759]もとは柳沢吉保に歌人として仕える。その後徂徠に入門し、文学としての漢詩文を独立させる。

センター問題に挑戦! No.9 (2001年追試) [易]

「孝」は人間関係を示す徳目にとどまらずに、天地万物の根源的「道」を示すものと唱えた近世の思想家は誰か。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 熊沢蕃山
- ② 荻生徂徠
- ③ 中江藤樹
- ④ 林羅山

[No.8の答] ② ①×上下定分の理⇒朱子学 ③×商人の職分⇒石田梅岩 ④×一君万民⇒吉田松陰

10. 国学・神道

○国学…江戸中期に形成。神道の流れを受けつつ、万葉集・記紀神話などの原典を文献学的・実証的に研究し、古代日本における為政の理想(古道(⇔漢心:儒仏の考え))を明らかにする考え

□契沖[1640-1701]国学の祖。真言宗の僧であったが、日本の古典についての造詣が深く、儒仏の解釈を退け、文献学的・実証的に古代の精神に触れるべきだと説いた

[著書]『万葉代匠記』国学の精神に則り、本文を逐一検討した『万葉集』の注釈書

□荷田春満[1669-1736]契沖・伊藤仁斎の弟子。京都伏見稻荷の神官で、契沖の万葉学に傾倒。『万葉集』・『日本書記』や有職故実の研究の基礎を築き、神道と和歌に新たな境地をひらこうとする

□賀茂真淵[1697-1769]荷田春満の弟子。江戸で田安宗武(吉宗の三男・歌人)に仕えて国学を講じ、退官後も国学の発展に大きな業績を残した

[著書]『国意考』日本固有の精神を強調し、儒教を批判。日本古来の歌道の政治的価値を説く

「いにしへは、ますらををはたけくをしきを、むねとすれば、うたもしかり」

賀茂真淵『歌意考』

◎『万葉集』の研究→古代の「高く直き心」「ますらおぶり」を発見

・高く直き心…儒仏のように教説めかない、古代日本の簡素・大らかで力強い精神

・ますらおぶり(益荒男振)…高く直き心が歌に表れたもの。男性風でおおらか

⇔たおやめぶり(後述)・からくにぶり(中国の儒仏思想の影響を受けた歌風)

□本居宣長[1730-1801]契沖や真淵の後継者として国学を大成

[著書]『古事記伝』(日本に古来より伝わる道として「惟神の道」をあげる)『玉勝間』(古事や学問・思想などについて自身の見解を述べる随想集)『源氏物語玉の小櫛』(源氏物語の本質を説き、注釈を加えた書。「もののあはれ」を知る心の重要性を説く)『直毘靈』(古道の入門書)

・惟神の道…神代から伝わる神の御心そのままに、人為を加えない日本固有の道→古道として理想化
自然の感情そのままに生きる人間の真心にも通ずる、神の働きによるおのずからなる道(⇔漢心)

・もののあはれ…人心が外界のものごとに触れた時におこる、しみじみとした感情の動き。宣長は、『源氏物語』の研究を通じて、「もののあはれ」を文芸の本質としてとらえ、日本文学を貫く美的理念だとし、これを知る人間を心あるよき人だとして理想化した

・真心…偽りの無い真の心。素直でおおらかな心情。宣長は、真心に従って生きることが人間本来の在り方であると説いた

・漢心…儒仏などの中国の学問によって感化された心。宣長は、形式ばって理屈ばかり説く堅苦しさを嫌い、漢心のために日本人の生き生きとした感情が抑圧され真心を失ったと説いた。そのため、日本古来の「惟神の道」に立ち直るべきだと主張した(⇔大和心)

・たおやめぶり(手弱女振)…『古今集』『源氏物語』に代表される女性的で優しい歌風。宣長は、いままでの国学のメインであった万葉集ではなく、『古今集』『源氏物語』を学ぶべきだと説いた

□平田篤胤[1776-1843]本居宣長の古道を受け継ぎ、古道と神道を結び付けた復古神道を説いた

□塙保己一[1746-1821]盲目の国学者。真淵に師事し、『群書類従』を完成させる。幕府の援助を受けて和学講談所を開設し、古書・古記録を分類収集し、近代史学につながる実証主義的史料研究を行った

○神道…日本固有の民族宗教。祭祀中心の多神教であり、古神道を基礎に、儒仏思想の影響を受けつつ成立

・伊勢神道(度会神道)…伊勢神宮の神職度会家行が鎌倉末期に創始。反本地垂迹説を支持。神主仏徒

・吉田神道…吉田神社の神職吉田兼俱が室町中期に創始。日本固有の惟神の道を主張する唯一神道

・垂加神道…江戸中期の儒学者山崎闇斎が創始した、儒学と神道を合一した儒家神道。天皇崇拝に基づく大義名分と封建道徳を説き、国粹的性格が幕末期の尊王攘夷運動に影響を与える

・復古神道…儒仏思想を混じらない日本固有の純粋な古代の神の道を説く。平田篤胤が体系化した。神々の子孫である天皇の絶対性と、その天皇の率いる日本の優越性を主張し、幕末期の運動に影響を与える

センター問題に挑戦! No.10 (2003年追試) [標準]

本居宣長の主張として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 日本人は、古代の純粋な神道信仰に復帰し、天皇への服従に基づく民族意識に目覚めなければならない。
- ② 日本人は、素朴な高く直き心をもって暮らしていた古代の自然の道を回復しなければならない。
- ③ 日本人は、無名の人々の文字によらない暮らしや考え方の中に、日本文化を見出さなければならない。
- ④ 日本人は、仏教や儒学が入ってくる以前の教え無き時代のあるがままの世界を知らなければならない。

[No.9の答③ 解説は略]

11. 江戸期の民衆思想

○町人の思想…

- 石田梅岩[1685-1744]もと農民の子。若くして商家に奉公に出され、43歳で学問に専念し、心学を創始。
[著書]『都鄙問答』(問答形式で町人徳を平易に説く)
 - ・心学(石門心学)…庶民のための平易な生活哲学。神道・仏教・儒教などの教えを、梅岩の生活体験に基づき融合し、町人の徳を説いた。(特に、商人の利潤追求を認めたところは、カルヴァンの職業召命観と相通じていると私は思う。(「商人の賃利は士の禄に同じ」「先も立ち、我も立つ」))
 - ・正直・儉約…商人の道を中心となる徳目。これは、商人のみならず普遍的な徳目であると説いた
正当な仕方で利益を上げる→正直(公正さ)・「先も立ち、我も立つ」(互助)
物と人とを有効に生かす→儉約・「ときにあたり法にかなふやうに用ゆる事」
 - ・「商人の賃利は士の禄に同じ」『都鄙問答』…「士農工商」の身分制での商人蔑視への批判。商人が生産せず、流通によって利益を得るのは、武士が生産活動を行わないのに俸禄をもらうのと同じと主張
 - ・知足安分…士農工商の分は、社会的分業であると考え、それぞれの身分に満足し、身の程をわきまえ、正直と儉約に生きるべきであるという考え。蔑視されがちな商人を擁護する理論的基礎
- 鈴木正三[1579-1655]仏教復興を志し、あらゆる職業が仏の働きを具現化しているとみなす(職分仏行説)(これも職業召命観と相通じているように見える) 勇猛さを強調した仁王禅で有名。[著書]『万民徳用』
- 西川如見[1648-1724]江戸期の天文暦算家。吉宗に招かれ天文学の講義もした。著書『町人囊』では、平等な人間観に基づき、町人生活の意義を積極的に捉える。
- 富永仲基[1715-46]江戸中期の儒学者。懐徳堂(大坂にあった自由な気風の塾)に学び、仏教・儒教・神道をそのまま受け取るのではなく、それらの歴史的な成立過程を明らかにする思想的アプローチを行う。加上説(古い考えには、沢山の後世の研究が加えられ、初期の説を探る事は難しい)を提唱
- 山片蟠桃[1748-1821]江戸後期の町人学者。懐徳堂に学び、合理思想を説く。地動説を唱え、物価の変動は需要と供給で決まると唱える。迷信を否定し、徹底した無神論である無鬼論を唱える
- 井原西鶴[1642-93]江戸前期の浮世草子作家。享樂的現世を写す小説を書き、町人文学を確立。作品中には、正直・儉約などの町人徳の表現も見られる
- 近松門左衛門[1653-1724]江戸中期の浄瑠璃・歌舞伎脚本作家。義理・人情の間のジレンマに苦しむ人間の姿などを鮮やかに描いた。
 - ・義理・人情…義理：人が他者と関わりを持つ際に行うべき徳。公的・社会的制約
 - 人情：人間的な情愛

○農民の思想…

- 安藤昌益[?~1762]東北八戸の医者・思想家。百姓の立場から封建制度や身分制度を批判
[著書]『自然真営道』(万人直耕の自然世をめざし、法世(万人直耕することのない搾取と差別の社会。当時の封建社会はこの典型)を厳しく批判。
 - ・自然世…昌益の説く理想社会。大自然に従い、すべての人が耕作を行い、衣食住を自給する平等な社会。反封建的なユートピア社会である。昌益は「土」が万物の根源であるという自然観を持った
 - ・万人直耕…すべての人が直接農業に関わり、自給自足すること。武士・商人・工業人は自ら耕作せず百姓の作る食糧に頼る不耕貪食の徒であるとし、封建社会を否定
- 二宮尊徳[1787-1856]江戸末期の農政家。貧困の中で、自家を再興し、農村復興・開拓などに従事
 - ・報徳思想…尊徳の根本思想。自分の存在は天地・君・祖先などの徳のおかげだとし、徳をもってその恩に報いねばならないという考え
 - ・天道・人道…農業は自然の営み(天道)と人間の働き(人道)の両者の働きに基づくという考え
 - ・分度…報徳の具体的な在り方。自分の経済力に見合った合理的な生活設計
 - ・推譲…社会の生産力を拡大するために、儉約で生まれた余裕を人に譲り、将来のために蓄えること

センター問題に挑戦! No.11 (2008年追試) [や、易]

安藤昌益は、万人が土を耕して生活する平等社会を理想とし、13への復帰を主張した。二宮尊徳は、人間の存在が君・親の広大な徳に支えられていると考え、「農は万物の大本」とであると説いた。また尊徳は、荒廃した農村の復興にも尽力し、そのためには14が必要であることを強調した。

文章中の 13・14 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つずつ選べ。

13 ① 小国寡民 ② 自然世 ③ 知足安分 ④ 古道 14 ① 分度 ② 節制 ③ 良知 ④ 加上

[No.10の答 ④] ①×全文⇒平田篤胤(復古神道) ②×高く直き心⇒賀茂真淵 ③×全文⇒柳田國男

12. 洋学と幕末の思想

○洋学…1542・43年の西洋との接触以来、宣教師ザビエルに代表されるように、様々な人物が来日し、多種多様な文化が伝えられたが、江戸期に鎖国が行われたために、西洋とは切り離されて学問体系が形成されることとなった。ヨーロッパで唯一付き合いのあったオランダから輸入された学問は、蘭学と呼ばれ、のちの洋学に影響を与えた。洋学は、江戸時代末期に定着し、実証性・合理性に富んだ学問体系であるために、既存の幕藩体制への批判や開国論の理論的基礎ともなった。

・和魂洋才…日本人の心情・精神を根底に、西洋の学問や科学技術を受容し活用する態度。

□青木昆陽[1698-1769]享保の飢饉に苦しむ民衆を救うため、サツマイモの栽培を説き、8代將軍吉宗に認められる。オランダ人通訳を通じてオランダ語を学び、蘭学発展の要因を作った

・『解体新書』…西洋医学に関する日本最古の翻訳書。前野良沢[1723-1803]・杉田玄白[1733-1817]らが、原書の『ターヘル・アナトミア』を翻訳し、蘭学の発展に寄与

□杉田玄白 [1733-1817](『解体新書』の項を参照)[著書]『蘭学事始』蘭学創始期の回想録

□三浦梅園[1723-89]江戸中期の思想家。豊後出身で、23歳の時にヨーロッパ近代科学の知識を摂取するために長崎に遊学する。その後郷里に戻り、儒学と蘭学を調和した、自然哲学的な、条理学を提唱

□大槻玄沢[1757-1827]江戸後期の蘭学者・医師。先述の杉田・前野に学ぶ。蘭学塾の芝蘭堂を開き、蘭学入門書の『蘭学階梯』を著す

□緒方洪庵[1810-63]江戸後期の蘭学者・医師。蘭学塾の適塾(適々斎塾)を大阪に開き、福沢諭吉・大村益次郎などの、次世代を担う人材の育成に尽力

□シーボルト[1796-1866]幕末に来日したドイツ人医師。出島のオランダ商館員として来日。長崎に鳴滝塾を開き、蘭学の発展に影響を与えるも、禁制の日本地図を国外に持ち出そうとして見つかり、国外追放処分を受ける(シーボルト事件)。59年に再来日

□高野長英[1804-50]江戸末期の洋学者。長崎でシーボルトに学び、江戸で開業医となる。のちに渡辺華山らと尚齒会(蛭社; 西洋研究グループ)を結成。幕府の対外政策(モリソン号事件)を批判する『戊戌夢物語』を書き、鎖国政策を批判したため、蛭社の獄(洋学者弾圧事件)で投獄され、自殺

□渡辺華山[1793-1841]江戸末期の洋学者。田原藩の家老で、政治家として実績を上げる。高野長英と同じく、幕府の政策を批判した『慎機論』を著し、蛭社の獄に連座し、自刃

○幕末の思想…

・水戸学…江戸時代、水戸藩での『大日本史』編纂事業を中心に興隆した学派。藤田東湖の周辺を中心に、大義名分論・国体論・尊王攘夷論などを特色とする思想が形作られる。

・大義名分論…「大義」…大きな正義・「名分」…君臣の名と上下の区分。天皇が「君」・將軍以下が「臣」

・尊王攘夷論…尊王論(天皇崇拜思想)+攘夷論(外国人排斥思想)。幕末の政治運動に影響を与える

□佐久間象山[1811-64]江戸末期の思想家・洋学者。西洋の科学技術を積極的に取り入れる必要性を説いた。幕末の危機に際して、開国論や公武合体論を力説するも、京都で尊攘派に暗殺される

・「東洋道德、西洋芸術」…≒和魂洋才。ここでの芸術は、技術のこと

□吉田松陰[1830-59]幕末の志士・尊王攘夷家。長州出身。若くして脱藩し、見識を深め、佐久間象山の弟子となる。ペリー来航に乗じ密出国を企てるも、失敗。郷里にて獄につながる。その間松下村塾にて講義を行い、高杉晋作・久坂玄瑞・伊藤博文・山縣有朋などの新時代の開拓者を輩出。その後、安政の大獄で刑死。

・一君万民論…藩ごとに分裂した幕藩体制の枠を超えて、天下万民の主君である天皇に民衆が結集し、「誠」をもって「忠」を尽くすという主張。維新に向かう青年に大きな影響を与える

□横井小楠[1809-69]幕末の政治・思想家。儒教的な見地から、公武合体を目指す

センター問題に挑戦! No.12 (2008年追試) [標準]

佐久間象山の「東洋道德、西洋芸術」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 東洋の道德は西洋の芸術に対抗できるものであるから、西洋の芸術を受け入れてもかまわない。
- ② 東洋では道德が優れており、西洋では技術が優れているので、両者を兼ね合わせる必要がある。
- ③ 東洋の道德では西洋の芸術を理解できないので、西洋の思想も受け入れなければならない。
- ④ 東洋の道德と西洋の技術とは対抗関係にあるので、東洋の道德を守る必要がある。

[No.11の答③② ④① 説明は略]

13. 啓蒙思想

○明治維新…1868年、**明治維新**によって幕藩体制は終わりをづけ、明治新政府が誕生した。今までの欧米先進諸国に追いつくべく、日本は近代的な国民国家体制を急いで確立せねばならなかった。

そのため、天皇を中心とする中央集権化がはかられた。

→殖産興業(産業を勃興させよう)・**富国強兵**(国を豊かにし、兵力を強化しよう)

- ・**近代化**…人々の考えが合理的・科学的になること。日本においては、西歐の文物の導入が主にあげられ、特にそれが政府・官僚主導で行われたことが特徴的(上からの近代化)
- ・**文明開化**…明治初期における、旧習を打破し西洋文明を積極的に取り入れようとする風潮(ガス灯・郵便制度・電信・鉄道・洋服・ザンギリ頭…)

○啓蒙思想家…伝統的な権威・迷信・因習などを否定し、人間の理性によって生活や社会制度を見直そうとした人物。**明六社**(啓蒙思想団体)が啓蒙運動の中心として有名

◆明六社のメンバーと思想

□**福沢諭吉**[1834-1901]大分の下級武士の出身。欧米の文明を見聞し、日本の近代化の必要性を説いた
[著書]『西洋事情』(西洋文化の紹介)『**学問のすゝめ**』『**文明論之概略**』[私塾]慶応義塾

・**天賦人權論**…人間はもともと平等で、何人も侵せない自由・平等・幸福追求の権利を生まれながらに持っているという考え。自由民権運動の理論的根拠となった

「**天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云へり**…」『学問のすゝめ』

「**門閥制度は親の敵(かたき)でござる**」

・**独立自尊**…人間の尊厳を自覚し、他人に過度に依存せず、各々が自立した生活を営もうとする精神

「**一身独立して一国独立す**」『学問のすゝめ』

・**実学**…実生活に役立つ西洋の学問(特に数学)⇔虚学(東洋の漢学) 「**人間普通日用に近き実学**」

・**脱亜論**…福沢の晩年の考え。近代的改革の進まぬアジアから抜け出し、近代的な西洋諸国の仲間入りを志向(脱亜入欧) 中国・朝鮮は「**アジア東方の悪友**」→「**謝絶**」→脱亜入欧(欧米列強に対抗)

・**官民調和**…欧米列強から日本の独立を守ることが第一→急進的民権運動「**駄民権**」**政府と民衆の協力**

□**中村正直**[1832-91]明治期の啓蒙思想家・教育者。個人主義道徳・功利主義・自由主義を説く
スマイルズ『Self Help』→『**西国立志編**』 J.S.ミル『自由論』→『**自由之理**』を翻訳

□**西周**[1829-97]明治期の哲学者・思想家。オランダに留学し、実証主義・功利主義・永久平和論などの影響を受ける。維新前は蕃書調所や開成所に勤め、維新後は明治政府に出仕した

「Philosophy」→「**哲学**」と翻訳 **多くの訳語を作った**

□**森有礼**[1847-89]明治期の政治家。**明六社の創立者**。幕末の留学体験により、西洋文明の薫陶を受けた。**文部大臣として学校令を制定し、ピラミッド型の教育体制で日本の近代化・富強化を図るも、国粹主義者の反感を買い、憲法発布当日に暗殺。一夫一婦制を説く**

□**加藤弘之**[1836-1916]

天賦人權説を支持→進化論の優勝劣敗・生存競争などに基づく**国権論**→自由民権思想に反対

□**津田真道**[1829-1903]維新後、政府に仕え、刑法などの立法に尽力

センター問題に挑戦! No.13 (2006年本試) [標準]

啓蒙思想家たちが結成したグループに明六社がある。次のア・イは明六社のメンバーに関する記述であるが、それぞれ誰の事か。その組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

ア 夫婦の相互的な権利と義務に基づく婚姻形態を提唱し、自らも実践した。

イ 「哲学」、 「理性」などの訳語を案出し、西洋哲学移入の基礎を作り上げた。

① ア 中村正直 イ 加藤弘之 ② ア 中村正直 イ 西周

③ ア 森有礼 イ 加藤弘之 ④ ア 森有礼 イ 西周

[No.12の答② 説明は略]

14. 自由民権運動

○自由民権運動…明治 10 年代に明治維新の立役者である薩長中心の政府(藩閥政府)の専制政治に反対し様々な政治改革を要求して展開された政治運動。1874 年に中央政府から下野した板垣退助が民撰議院設立建白書を提出したのが発端となり、政府に不満を持つ士族層や地主層を巻き込んで全国に広がった。明治 13-14 年ごろには最盛期を迎えるが、10 年代の終わりごろには、政府の弾圧などにより衰退した

- ・自由民権思想
 - イギリス系民権思想 (穏健) ミル・スペンサー
→福沢はじめ明六社メンバーらが支持《官民調和》
 - フランス系民権思想 (急進的) ルソー
→中江兆民・植木枝盛らが支持《主権在民, 抵抗権・革命権》

□中江兆民なかえちやうみん[1847-1901]明治の啓蒙思想家・政治家。ルソーの影響を受け、フランス流の急進的民権論を説く。

(→東洋のルソーと呼ばれる)晩年は国家主義に傾倒

[著書]『三酔人経綸問答』(民主主義者の洋学博士・侵略主義者の豪傑君・現実主義者の南海先生が、近代化しつつある日本をいかに独立・発展させるか説いたもの。欧米の合理主義と日本の国粋主義との風潮の対立の中で自己を確立せんとする日本の知識人の苦悩が語られている)

『一年有半』(余命一年半となった兆民の遺書。明治日本への批判がつづられている)

『民約訳解』(ルソーの『社会契約論』を漢訳。主権在民の原理や抵抗権が、民権運動に大きな影響を与える)

・恩賜的民権…為政者が上から人民に与えた民権(人民の諸権利)

・恢復(回復)的民権…人民自らが勝ち取った民権

日本→恩賜的民権 [市民の意識⊕]

英仏→恢復的民権 [市民の意識⊕]

理想は恢復的民権だが、日本の時勢を考慮し、恩賜的民権を恢復的民権と変わらないようなものにしよう!

□植木枝盛うえきえもり[1857-92]明治の自由民権思想家。維新後上京し、板垣退助の演説によって自由民権思想に目覚める。

近代政治思想を学ぶ中で、急進的な民権思想家として有名になった。[著書]『民権自由論』

・東洋大日本国国憲按…植木が起草した私擬憲法案。「主権在民」の考えに基づき、君主権能の制限・基本的人権の無条件保障・抵抗権の規定・一院制の議会の強い権限などを主な内容としていた。

センター問題に挑戦! No.14 (2008 年追試) [や、難]

啓蒙思想に関して、啓蒙思想家の一人である中江兆民に関する説明として適当でないものを、次の ①～④ のうちから一つ選べ。

- ① 『三酔人経綸問答』を著し、恩賜的民権から立憲君主制を経て恢復(回復)的民権に移行すべきだと説いた。
- ② ルソーの『社会契約論』を『民約訳解』として翻訳するなど、急進的なフランス啓蒙思想の移入に努めた。
- ③ 平民社を設立し、『平民新聞』で反戦平和の大切さを訴えるなど、自由民権運動を積極的に推進した。
- ④ 『一年有半』『続一年有半』を著し、神や靈魂の存在するなど、独自の唯物論を述べた。

[No.13 の答 ④ 説明は略]

15. 国粹主義

- 国粹主義…日本の伝統の中で成長し、発展してきた歴史・文化などを他国と比較して優れたものであるとし、その維持や発展を図ろうという思想。政府の欧化政策による極端な欧化主義や西洋一辺倒の風潮への反動として、明治20年代に三宅雪嶺や陸羯南などによって主張された。また、明治初年の廃仏毀釈(神仏分離)も、日本の独自性を強化するという点で影響を与えた。日清戦争以後、排外的要素と国家至上的要素が強大化・変質し、昭和の超国家主義・ファシズムに結び付いた
- ・欧化主義…上流階級中心に展開された、欧米の制度や風俗・習慣などを盛んに取り入れ、模倣しようとする風潮。極端な西洋崇拜は、国民の反感を招き、反動として国粹主義があらわれた
 - 三宅雪嶺[1860-1945]明治～昭和期の評論家。日本が西欧文化の一面的模倣に走っていることを戒め、西洋思想や近代化を盲目的に排斥するのではなく、日本固有の精神的・物質的長所を明らかにし、国粹保存を主張した。民族の歴史的使命を自覚し、民族の個性的価値である国民性を認識して、その実現に努め、国家の独立を重視すべきだと説いた。[著書]『日本人』(雑誌)
 - 陸羯南[1857-1907]明治の評論家。武家に生まれ、のちに官吏となるが、極端な欧化政策に反対して官を辞す。日本の国情や伝統的美点を保持しつつ、自主的な改革をすすめる、国家の独立を目指すべきだと説き、国民主義を唱えた。[著書]『日本』(新聞)
 - 志賀重昂[1863-1927]明治・大正期の地理学者・政治家。西欧諸国の植民地収奪の実情を知り、日本の独立の危険性を痛感する。衆議院議員当選後は、アジアに対しては帝国主義の立場に立つ。日本各地の山岳や自然の特徴をまとめた『日本風景論』は、啓蒙的地理学の普及に大いに役立った
 - 西村茂樹[1828-1902]明六社のメンバー。極端な欧化主義に反対し、『日本道德論』を著す。国家の基本を儒学の基本の道德に求めつつ、儒学に欠如している進取の気性および尊卑の別の強調性を補うものとしての西洋哲学を取り入れた国民道德を説いた。また、教育勅語が生まれる気運も育てた。
[著書]『日本道德論』(国民道德は儒教を根幹として、西洋哲学をも取り入れて再建すべき)
 - ・教育勅語…我が国の教育の根幹や国民道德の基本原則をあらわした勅語。儒教道德(忠孝)が根本であり、万世一系の天皇家中心の国家的統一が強調されている。第二次世界大戦の終結まで、日本国民に強い教育・思想的影響を与えた
 - 井上哲次郎[1855-1944]明治・大正期の哲学者。キリスト教を反国体的だと批判、天皇制に基づく国家主義を主張
 - 徳富蘇峰[1863-1957]評論家・歴史家。西洋の単なる模倣で、上流階級だけの欧化主義(貴族的欧化主義)に反対し平民的欧化主義を主張。若くして自由民権運動に傾倒し、のちに『国民之友』(雑誌)を発刊、平民主義を唱えた。また、1890年には『国民新聞』を発刊し、近代的な産業社会へ進むべきだと説いた。日清戦争後から国家主義的に傾く
[雑誌]『国民之友』(蘇峰の設立した民友社発行の雑誌。自由・民主・平和を主張する平民主義を主軸とするも、蘇峰が国家主義に傾倒して以後人気を失い、『国民新聞』に吸収され廃刊)
 - ・平民主義…蘇峰が明治20年代に『国民之友』で主張した考え。文明開化。欧化主義が貴族・官僚中心であると批判し、一般大衆の立場からの、下からの西洋文化の受容&近代化が肝要だと説く

○アジアへの視点

- 岡倉天心[1862-1913]明治期の思想家・美術指導者。「アジアは一つ」との自覚から東洋・日本の美術と思想を世界に紹介し、その豊かな可能性を説く。

センター問題に挑戦! No.15 (2003年追試) [や・難]

「アジアを共通の文明圏として捉える思想」に関連して、次の文章を読み、その主張に合致する考え方として適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

アジアの兄弟姉妹よ！我々は、様々な理想の間を長い間さまよってきた。さあ、再び現実に目覚めようではないか。(中略)我々は結晶のような生活を誇りとして、互いに孤立してきた。さあ、共通の苦難と言う大洋の中で溶け合おうではないか。

(岡倉天心『東洋の目覚め』)

- ① 朝鮮、中国、ロシア、英国などの国々を貧富強弱で区別するのをやめ、公平無私の眼をもてば、我々は世界の大勢を観察できる。
- ② 究極と普遍を求める愛の広がりこそは、共通の思想的遺産であり、我々を欧州から区別できるものである。
- ③ 科学的社会主義が野蛮な軍国主義を滅ぼし、四海同胞の世界主義が略奪的帝国主義を一掃することができる。
- ④ 民権は根本原理であり、自由平等は大原則である。百の帝国主義によっても滅ぼされえないし、まして欧米の専有物でもない。

[No.14の答③] 平民社は幸徳秋水

16. 日本のキリスト教

○日本のキリスト教…明治初期に信仰の許可。知識人階級を中心に浸透

□**内村鑑三**[1861-1930]日本の代表的な思想家・キリスト者。高崎藩(現在の群馬)の武士の家に生まれ、儒教道徳と武士道精神のもとに少年時代を送る。札幌農学校で初めてキリスト教に触れる。以後、日本に真のキリスト教が根付くと考えるに至り、二つのJに生涯をかけると決心し、愛する日本を神の義に適う国にするために生涯をささげた [著書]『余は如何にして基督信徒となりし乎』

- ・二つのJ…Jesus(イエス)とJapan(日本)のこと。二つのJは、相矛盾するものではなく、イエスへの純粋な信仰のなかで、近代化の進む日本での精神的再生を図ろうとした

「私は日本のために 日本は世界のために 世界はキリストのために そしてすべては神のために」 (内村鑑三墓碑銘)

- ・「**武士道に接木されたるキリスト教**」…社会正義を貫き、清廉潔白な武士道こそがキリスト教の真理と正義の土台である
- ・**無教会主義**…人間は神の前に立つ独立的人格→教会や儀礼にとらわれず、直接聖書の言葉を読むことに基づく信仰をすべき (パウロ・ルターらの福音主義に類似) →明治の知識人に大きな影響
- ・**非戦論**…日露戦争反対の主張。神は人間に「殺すなかれ」と命じている→絶対的な平和主義こそが真の正義&愛国の道
- ・**内村鑑三不敬事件**…第一高等中学校の講師であった内村が、教育勅語奉読式で最敬礼を行わなかったため、非難を受け辞職。(←キリスト教の神以外に「礼拝」する事への拒否)

□**新渡戸稲造**[1862-1933]明治末期-昭和初期の教育者。札幌農学校で内村らとともに学ぶ。アメリカ・ドイツに留学後、教師として東大や京大で教育活動をおこなう。キリスト教に基づく人格主義・理想主義の教育を行う。また、新渡戸は「太平洋の橋」となることをめざし、キリスト教徒日本文化との融合、日本文化の海外への紹介を行い、晩年は国際平和のために国連事務総長として活躍した

[著書]『**武士道**』…日本人の精神を世界に紹介するために著した英文の書。武士道はキリスト教を受け入れる素地であると紹介した

□**新島襄**^{しょう}[1843-90]明治の宗教家・教育者。聖書に感銘を受け、幕末に海外へ密航。苦学して大学へ進学し、神学を修める。帰国後京都に**同志社**を創設し、キリスト教を基本とした教育活動を行う

□**植村正久**[1857-1925]明治・大正期の日本プロテスタント教会の中心。日本人**伝道者を養成**し、日本の神学の基礎を築く。また、国家主義的風潮にも激しく抵抗した

センター問題に挑戦! No.16 (2003年追試) [標準]

「アジアの盟主としての日本の植民地支配」に関連して、台湾総督府の植民地官僚でもあった新渡戸稲造の説明として適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① キリスト教に匹敵する精神文化として、日本に武士道の伝統を見出し、それを世界に紹介した。
- ② キリスト教の影響を受けながら、学生時代には人道主義に傾倒し、のちに大正デモクラシーの指導的役割を担った。
- ③ キリスト教の洗礼を受け、啓蒙思想の普及に努め、『西国立志編』などの翻訳書を世に出した。
- ④ キリスト教の信仰に基づき、日露戦争に際しては、絶対平和主義を主張して、徹底した非戦論を唱えた。

[No.15の答②] アジアの兄弟姉妹・共通→アジアとしての一体感 欧州からの区別]

17. 大正デモクラシー

○大正デモクラシー…第一次世界大戦後に世界に広まった民主主義の情勢を背景に、日本で大正期に展開した自由主義・民主主義的運動。1925年(大正14年)の治安維持法・普通選挙法の制定まで続く。明治末期の国家主義・軍国主義的傾向の反省から生まれ、多様な分野での人間の個性・自由・平等の尊重が謳われた。

○民主主義学説…東京帝国大学を中心に展開

□吉野作造[1878-1933]大正-昭和初期の政治学者。東京帝大在学時にキリスト教的人道主義に影響を受ける。帝大教授として政治史を担当しつつ、雑誌『中央公論』で多数の論説を発表

[著書]『憲政の本義を説いて其の有終の美を済すの途を論ず』

・民本主義…吉野作造による、大正デモクラシーの指導的理論。Democracyの訳語ではあるが、民主主義のいう"主権が人民にある"という考えではなく"国家の活動の基本的目標は政治上人民にあるべき"という思想。⇒主権運用の際の最終決定権は人民にある

□美濃部達吉[1873-1948]明治-昭和初期の憲法学者。大正期に天皇機関説を主張し、吉野と共に大正デモクラシーの理論的指導者となる

・天皇機関説…統治権は法人としての国家にあり、天皇はそれを行使する機関であるという学説。昭和に入って、軍部の台頭に伴って国体に反するとして批判され、著書は発禁となった

○部落解放運動…被差別部落民の解放を求める運動。封建的身分制度が廃止され、四民平等となった明治以降も、政府は十分な施策を行わず、社会的・精神的差別が残ったため、大正デモクラシーの交流を背景に、身分差別の撤廃を求め、全国水平社が結成された

・全国水平社…1922年、被差別部落を解放するために結成された被差別部落民自身の組織。創立大会で発表された水平社宣言で、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と訴え、差別の撤廃に努めた

□西光万吉[1895-1970]水平社宣言の起草者。全国水平社のシンボルマークである荊冠旗も彼の公案

○婦人解放運動…大正デモクラシーの時期に大きく進展した、女性の差別や抑圧からの解放を図る運動

明治前期：岸田俊子・景山(福田)英子ら…自由民権運動に参加・男女同権を要求

明治後期：平塚らいてう・市川房江・奥むめおら…新婦人協会を結成、婦人参政権(参政権・公民権・政治的結社権)を求めて活動

□平塚らいてう(雷鳥)[1886-1971]大正・昭和期の女性解放運動家。1911年、青鞥社を起し、婦人解放運動の中心となった。[著書](雑誌)『青鞥』(女性自身の意識・女性の社会的地位の向上を訴える)

「元始、女性は実に太陽であつた。真正の人であつた。今、女性は月である。他に依って生き、他の光によつて輝く病人のやうな蒼白い顔の月である。私共は隠されて仕舞つた我が太陽を今や取戻さねばならぬ。」 『青鞥』

○公害との戦い…

□田中正造[1841-1913]明治期の政治家。自由民権運動に参加後、県会議員・衆議院議員となった。足尾銅山鉍毒事件の発生と共に、鉍毒問題の深刻さを訴え、職を辞して天皇への直訴を試みるも失敗する。以後も残留した農民と共に鉍毒事件と闘った

センター問題に挑戦! No.17 (2002年追試) [や・難]

「立憲政体」に関連して、吉野作造は「民本主義」を提唱した。その記述として適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 憲法の規定内で民本主義を貫徹させるには、国民の意思がより反映する普通選挙の実施と政党内閣制が望ましいと主張した。
- ② 民本主義の具体化のため、まず主権者である天皇の権力を制限することが重要であるとし、国民の意向による民定憲法の制定を主張した。
- ③ 国民が政治的に中立の立場を貫くことが民本主義にとって重要であるとし、国民を主体とした中道勢力による政党政治の実現を主張した。
- ④ 民本主義をデモクラシーの訳語として把握するがぎり、国民主権の確立こそが最初に達成すべき政治的な目標であるとした。

[No.16の答① ② 吉野作造 ③ 中村正直 ④ 内村鑑三]

18. 日本の社会主義

- 日本の社会主義…日清戦争後に起こった資本主義勃興の影響を受け、日本でも社会問題が顕在化した。それゆえ、社会主義の思想家が登場した。特に、キリスト教人道主義や民権主義から社会主義へ進んだ人物が多く誕生し、政治・経済・社会に大きな影響をもつことになった。
- 明治～昭和の社会主義…日清戦後の産業革命により、都市部での賃金労働者が増え、これに伴って労働問題などが顕在化した。その解決を図るための思想・運動が展開された。

◆自由民権論の流れ

- 幸徳秋水** [1871-1911] 明治期の社会主義者。中江兆民の書生となり、兆民から民主主義や唯物論を学ぶ。のちに、自由民権運動⇒社会主義運動に移行し、自らの思想を深めていった。日露戦争に関しては、平民社を設立し、『**平民新聞**』で非戦論を唱え、社会主義者として行動した。1905年に渡米後、無政府主義の影響を受けて帰国し、思想の急進化が進んだ。1910年に**大逆事件**の嫌疑をかけられ、翌年処刑された
- [著書] 『**廿世紀之怪物帝国主義**』(日本の帝国主義を、「いわゆる愛国心を経とし、いわゆる軍国主義を緯とする」して批判) 『**社会主義神髓**』(社会主義思想の啓蒙的解説書。当時の青年層に影響大)
- ・**大逆事件**…1910年明治天皇暗殺計画があったとして、幸徳秋水ら社会主義者26名が検挙され、12人が処刑された事件。社会主義運動弾圧を図る政府の方針によるものであり、以後社会主義運動・労働運動は厳しい冬の時代を迎えた
- 堺利彦** [1870-1933] 明治-昭和初期の社会主義運動家。幸徳と共に『**平民新聞**』で非戦論を展開する。その後日本共産党に入党するも、のちに社会民主主義の道に進む
- 大杉栄** [1885-1923] 明治・大正期の社会運動家。『**平民新聞**』に参加。無政府主義(アナーキズム)を唱えたが、関東大震災後に拘引され、殺害される。以後、無政府主義は急速に衰える

◆キリスト教的人道主義の流れ

- 片山潜** [1859-1933] 明治-昭和期の労働・社会主義運動家。渡米後にキリスト教社会主義者としての自己を確立。帰国後は伝道と労働運動に活躍し、1897年には日本初の労働組合を結成し、1901年には幸徳らと社会民主党の結成に尽力。議会制社会主義を主張し、普通選挙制の実現に努力した。コミンテルン(世界各国の共産党の指導機関)にも参加し、日本共産党の結成を指導する等共産主義者として活動。モスクワで客死
- ・**社会民主党**…1901年に結党された日本最初の社会主義政党。3日で禁止された。6人中幸徳以外の5人はキリスト教徒。貧富の差や個人競争主義を否定し、社会主義・平和主義・民主主義を主張
- 安部磯雄** [1865-1949] 明治-昭和期の社会主義運動家。同志社を卒業後、欧米で神学や社会主義を学び、帰国後同志社大学・早稲田大学教授となる。社会民主党にも参加。1921年に日本フェビアン協会を設立し、議会制社会主義運動の発展に尽力
- 木下尚江** [1869-1937] 明治-昭和初期の社会主義運動家。普選・廃娼運動や、足尾銅山事件などに社会運動家として積極的に協力した。社会民主党にも参加。晩年には、社会主義から離れ、求道者としての生活を送る

◆マルクス主義学者

- 河上肇** [1879-1946] 明治-昭和初期の代表的マルクス主義経済学者・思想家。若い時は、足尾銅山鉍毒事件や無我愛運動に立ち入った。経済学的観点から、「**貧乏の克服**」という問題に取り組み、人道主義的・社会改良主義的な思想を訴えた。しかし、それでは社会問題の解決は難しいと考え、マルクス主義の道へ進んだ。京都帝国大学を辞職し、共産党に入党したが、翌年検挙され、服役。出獄後は文学的生活を送る
- [著書] 『**貧乏物語**』(経済学の根本問題を資本主義の生み出す貧困と捉え、**人心改造**という心情的倫理による解決を説いた。)

センター問題に挑戦! No.18

(2002年追試) [易]

「個人の自立」に関連して、女性の自立を訴えた雑誌『青鞥』の中心にいた思想家として最も適当な人物を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 高群逸枝
- ② 与謝野晶子
- ③ 平塚らいてう
- ④ 福田(景山)英子

[No.17の答 ① ②×天皇の権力の制限・民定憲法 ③×中道勢力による政党政治 ④×国民権の確立]

19. 近代的自我と文学

○近代的自我…西洋思想移入の中で、文学者に代表される当時の知識人が確立しようとした、内面的・主体的な自己意識。明治20-30年代のロマン主義運動として主に文学界で起こり、明治後半期には自然主義・反自然主義などが生まれた。大正デモクラシーの中で、哲学思想における人格主義・教養主義などが展開され、漱石の立場を引き継いだ白樺派の文学者たちも登場した

○ロマン主義…×「固定的な形式・規則」 ○「自由な感情や豊かな想像力」「自我・個性の尊重」

□北村透谷[1868-94]明治期の詩人・評論家。民権運動の挫折をへて文学を志す。『文学界』を創刊し、近代的

自我の覚醒を促すも、理想と現実の乖離に耐えられず、自殺

・透谷の考える"自由・幸福"…×「実世界」(現実の世界)の自由・幸福→功利主義

○「想世界」(内面的世界)の自由・幸福←(信仰と愛によって実現)

[著書]『内部生命論』(×肉体的な外部生命「実世界」 ○精神的な内部生命「想世界」)

□与謝野晶子[1878-1942]明治-昭和期の浪漫派の歌人。人間性の解放をはばむ封建的道德に挑戦

・君死にたまうこと勿れ…日露戦争に従軍した弟を想って詠んだ歌。反戦のメッセージ…?

□島崎藤村[1872-1943]明治-昭和期の代表的文学者。1893年、透谷とともに『文学界』創刊

[著書]『若菜集』(ロマン主義)→『破戒』(自然主義)

○自然主義…文学において、古い思想や行動に捉われず、日常の事実をありのままに描く立場

□田山花袋[1872-1930]私生活をありのままに描く [著書]『蒲団』『田舎教師』

□国木田独步[1871-1908]既成の道徳や思想の束縛を捨てて、自己の感覚そのままに、直接天地や人生の事物事象に触れる [日記]『欺かざるの記』

○夏目漱石の思想…明治以降の日本の近代化のあり方を問う

□夏目漱石[1867-1916]明治期の代表的作家。イギリスへの留学以降、他人本位の自分の在り方に苦悩する。『吾輩は猫である』以降、多数の文学作品を書き上げ、49歳で人生を終える

・自己本位…伝統的社会関係から解放され、自我の内面的欲求に基づいて生きる事。自我の追求に真正面から向き合う事⇔他人本位

・個人主義…自己本位に根ざす個人主義。自分や他人の個性を倫理的に尊重した上でのもの
⇔エゴイズム(自己中心的主義)

・則天去私…晩年の考え。小さな自分を去って、普遍的な自然の命ずるままに自分をまかせる。運命に甘んじ、静かに一切を受け入れる態度

[著書]『現代日本の開化』(内発的開化;西洋文明・自然発生的な文明の発展 外発的開化;日本・外国文明の圧力による、やむを得ず開始された文明開化⇒自己を失って、虚無感や不安を感じる)

『私の個人主義』(彼の思想の中で、自己本位に目覚めるまでの経緯を語る。)『こゝろ』『明暗』(遺作)

○森鷗外思想…当時の自然主義文学を批判。ロマン主義文学に傾倒

□森鷗外[1862-1922]明治・大正期の代表的作家。軍医。内面的自我の欲求や自己感情と社会的責務の間の対立を描く。

・諦念(レジグナチオン;resignation)…個人と社会の葛藤の中で、あくまで自己を貫くのではなく、自己の置かれた立場を見つめ、受け入れることによって心の安定を得る

[著書]『舞姫』(主人公太田豊太郎がベルリンの踊り子エリスと恋仲となるも、帰国せねばならなくなり、エリスは発狂。国家や社会・家族などの周囲から期待される役割と近代的自我の対立・葛藤が題材)『阿部一族』『高瀬舟』

○白樺派…

□武者小路実篤[1885-1976]大正・昭和期の文学者。白樺派の中心人物。理想主義・人道主義に生き、理想社会をめざした「新しき村」(労働&芸術の共同体)を建設した

センター問題に挑戦! No.19 (2011年本試) [や・易]

ロマン(浪漫)主義の主張の説明として最も適当な人物を、次の①~④のうちから一つ選べ。

- ① 旧来の道徳に真に従うために、自然な感情を尊重し、感情の中に含まれる道徳への志向に基づく自我を確立すべきだと主張した。
- ② 伝統的な権威から離脱し、新たな生活や社会制度のあり方を築くことができる理想的な主体としての自我を確立すべきだと主張した。
- ③ 伝統的な道徳に囚われず、現実をありのままに直視することで、自己の自然なありかたに語とづいた自我を確立すべきだと主張した。
- ④ 旧来の社会で必要とされてきた価値観の束縛から脱し、自然な感情や情熱を肯定することを通じて、自我を確立すべきだと主張した。

[No.18の答③ ①×女性史研究家 ②×歌人 ④×明治初期の女性運動家]

20. 日本の伝統に根差した思想

- 西田幾多郎[1870-1945]日本の代表的哲学者。東京帝大に学び、京都帝大で教鞭をとる。(哲学の道は、彼の散歩コース) 禅の修行を通じて自己を鍛錬し、**純粹経験**や**絶対無**などの概念を提唱した
[著書]『善の研究』(日本初の独創的哲学書。純粹経験と言う概念を提出し、それを基礎に自己の確立という課題を追究)『自覚における直観と反省』『無の自覚的限定』
- ・純粹経験…西田が自分の哲学の根本としたもの。**主客未分**(主観と客観がまだわかれていない)状態の具体的・直観的な経験をさす。Ex.) 美しい音楽に聞き入る・読書に没頭する……
 - ・西田哲学…西田が自らの思索および体験に基づいて形成した哲学。日本初の独創的哲学ともいえる。明治以降、日本の哲学は西洋哲学の移入ばかりとなっていたが、西田哲学は、東洋および日本思想を根本としつつ、西洋哲学の肉付けをしていった点で独創的であるといえる
 - ・場所の論理…西田の晩年の哲学用語。現実はどうのようものであるかを考えた西田は、東洋と西洋の対立の底に、単なる有無をこえた絶対無の「場所」があるとした
 - ・絶対無…一切のものを存在させる絶対的な無。有の否定としての相対的な無ではなく、相対有・無の対立を越え、かつ相対的な有・無の根拠となる絶対的なものを意味する。
Ex.) こたつの上にみかんがある・ない⇒相対無
- 和辻哲郎[1889-1960]日本の代表的な倫理学者。京大・東大教授。西田の影響を受け、倫理学の研究をすすめる。日本の文化や風土・精神性にも興味を持ち、幅広い学問活動を行った
[著書]『風土』(cf.#1)『人間の学としての倫理学』(倫理学を人と人との間柄の学問 (=人間の学) として捉える。和辻の倫理学体系の出発点)『倫理学』
- ・間柄的存在…和辻の捉えた人間の在り方を指す言葉。人間は人と人との間柄(関係)の中でのみ人間でいられるのであり、孤立した個人的存在ではないということ。このような間柄で実現される理法こそが倫理学であると和辻は説いた
- 柳田国男[1875-1962]日本民俗学の創始者。東京帝大卒業後、農民生活に関心を持ち、特に無名の常民の生活文化に注目しながら、民俗学の研究を進めた。また、民俗学を日本人の精神を解明する学問として**新国学**とも呼んだ。 [著書]『遠野物語』(現在の岩手県遠野地方に伝わる山の神や河童などの民間伝承を記した)
- ・民俗学…民間伝承・民間信仰・生活文化・方言などをそだいとして民族の伝統文化を研究する学問
 - ・常民…柳田の造語。民間伝承を保持している階層で、無名の人々のこと
- ^{みなかたぐまくす}南方熊楠[1867-1941]明治-昭和にかけての在野の生物学・民俗学者。明治政府の**神社合祀令**に対しては、鎮守の森が破壊され、人の心や文化をも破壊されるとしてつよく反対した
- ^{むねよし}柳宗悦[1889-1961]大正・昭和期の民芸運動創始者。朝鮮を旅行した際に美術を通じて朝鮮への理解を深め、1919年の三・一独立運動の際には、日本の朝鮮政策を批判した
- ・民芸…柳の造語。日用品への美の概念。従来普段使いの日用品としてしか扱われなかったものに、無名の職人による熟練した手仕事によって生み出された美を発見した。

センター問題に挑戦! No.20 (2004年追試) [易]

柳田民俗学に関する説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 日本古来の民族の姿を、文学的直観をもとに論じ、共同体外部からの来訪神(まれびと)の性格を明らかにしようとした。
- ② 日本文化の原風景として、稲作定住農耕民の生活習慣を想定し、その由来を宗教的側面を踏まえて明らかにしようとした。
- ③ 知識人の書き残した文献ではなく、無名の庶民の日常的習慣や儀礼の中に日本文化の真の姿を探求しようとした。
- ④ 日本全国の民間伝承を筆録する運動をすすめ、怪異譚や民話を分析して、庶民の精神生活の実相を明らかにしようとした。

[No.19の答 ④] ①×旧来の道徳に真に従う ②×新たな生活や社会制度のあり方 ③×現実をありのままに直視⇒自然主義]

21. その他の思想家

○国家主義…国家に最高の価値をおき、国家権力が生活のあらゆる場面で統制を及ぼすことを肯定し、その重要性をみとめる思想

- 明治前期—ナショナリズムと結合した国権論として登場(啓蒙思想・民権運動)
- 明治後期—帝国主義国家としての日本の確立・発展のイデオロギー(日清・日露W)
- 大正期—社会主義運動への反動
- 昭和期—超国家主義としてのファシズム支配のイデオロギー

天皇制と
密接に関係

・超国家主義…極端な国家主義。対外的には、排外・侵略主義をもち、対内的には個人の自由と、国家への強制的従属を特色とする

- 北一輝^{きたいつき}[1883-1937]大正・昭和初期の国家主義運動の理論的指導者。青年期は社会主義に関心をもったが、その後、革命家としての道を歩み、中国の辛亥革命に参加した。大正デモクラシーの波の中『日本改造法案大綱』を著し、超国家主義を主張するに至った。北は、天皇と国民を隔てる元老・財閥・政党などをクーデターと軍部独裁で除去した、天皇と国民が直結する政府を理想とし、国家改造を目指した。1936年の2・26事件は、彼の思想の影響を受けた青年将校によって起こされたものであるが、北はその首謀者として処刑された
- ・国体…万世一系の天皇が神聖不可侵の存在として統治する政治体制。昭和前期には、国体の護持という名目で、様々な活動が弾圧され、滅私奉公を強いられた
 - ・軍国主義…政治や経済、教育などのあらゆる分野で軍事的価値を優先させる思想

○現代の思想

- 丸山眞男^{まるやままさお}[1914-96]昭和-平成期の政治学者・政治家。自身の2度の従軍経験から、戦後、ファシズムの問題をとりあつかう。日本の近代意識の源泉を近世の儒学思想にみつけ、現代日本の政治にも鋭い批判と分析を行った。
- 石橋湛山^{いしばしたんざん}[1884-1973]大正・昭和期の評論家・政治家。1911年、東洋経済新報社に入社。自由主義と宗教心に基づくヒューマニズムを背景に、現実的な実践につながる評論活動を行った。特に、当時の日本の国家主義の独善性、対外侵略、植民地主義などを批判し、文化や経済の分野で日本の地位を高める小日本主義を唱えた。また、晩年首相にもなった

センター問題に挑戦! No.21 (2007年本試) [難]

近代日本がなぜ軍国主義と戦争の惨禍に行き着いたのかを問い、戦後の日本に民主社会を確立する道を模索した思想家に、丸山眞男がいる。彼が戦後の日本人の課題と考えたことを説明した記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 西洋の哲学と東洋の儒教を融合させ、世界に通じる普遍的な道徳を日本と言う個別の場で実現できる、新しい国民道徳を確立しなければならない。
- ② 外来の思想をとって伝統を捨てるのではなく、逆に伝統に固執するのでもない、自己本位の能力に基づいた内発的開化を推進しなければならない。
- ③ 日本という風土の中で培われてきた文化と歴史を尊重し、日本民族の独自性を守りつつ、西洋の学問・技術の長所を採用していかなければならない。
- ④ 他者を他者として理解し、また自分の中に巣くう偏見につねに反省の眼を向けることのできる、自主独立の精神をもつ個を確立しなければならない。

[No.20の答① ①×まれびと⇒折口信夫の考え方 c.f.#2]

[No.21の答④ ①×国民道徳⇒西村茂樹 ②×内発的開化⇒夏目漱石 ③×風土⇒和辻哲郎]

えんじゃく いずくんぞ こうこくの こころざしを しらんや

「燕雀何知鴻鵠志哉」

センター倫理、頑張ってください。

理解する倫理～日本思想編～ 最終講・終

理解する倫理～日本思想編～

2012年8月～2012年12月収録

2013年7月27日第1刷発行

著者：はやお(京都大学 manavee 所属)

京都府立大学文学部歴史学科 日本近現代文化史専攻

発行者：著者に同じ

発行所：manavee 出版

連絡：コメント欄まで

誤字・脱字等は、連絡ください。